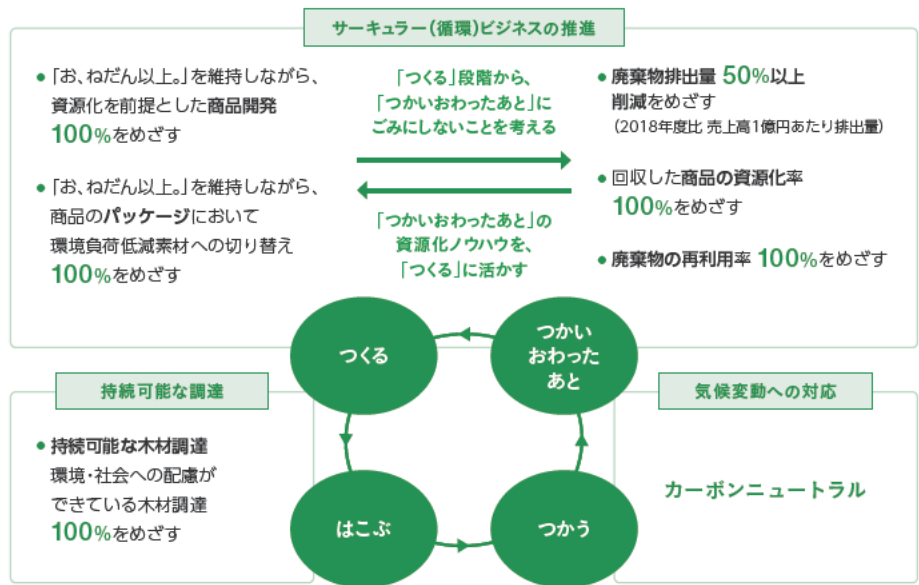


NITORI Group Green Vision 2050

2024年8月に策定・公開した「NITORI Group Green Vision 2050」は、ニトリグループ独自の循環型ビジネスモデルを最大限活かし、環境への配慮及び持続可能な「住まいの豊かさ」の実現に貢献するための、2050年に向けた目標です。「① サーキュラー（循環）ビジネスの推進」、「② 持続可能な調達」、「③ 気候変動への対応」の3つのテーマに基づき、ニトリグループ一丸となって目標達成に向けた取り組みを推進してまいります。

NITORI Group Green Vision 2050



ニトリグループは、持続可能な「住まいの豊かさ」の実現を目指します

ニトリグループは、この「NITORI Group Green Vision 2050」達成に向けた歩みを通じて、持続可能な「住まいの豊かさ」の実現を目指します。

限りある資源をつかってビジネスを行っている私たちだからこそ、「つかいおわたあと」まで考えた循環型ビジネスを推進していくとともに、お客様にとっても、ニトリグループでのお買い物が環境負荷の低減につながると実感していただくこと、そして、それを誰もが手に取りやすい「お、ねだん以上。」の価格・品質を維持しながら実現することを目指します。

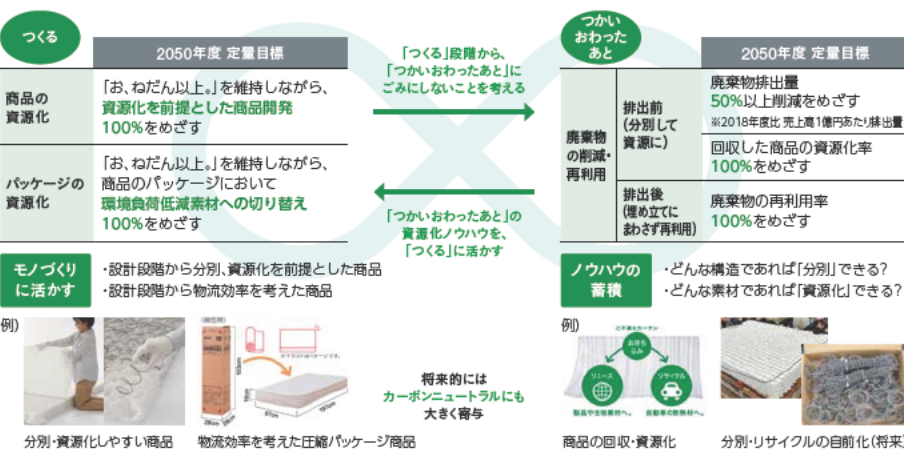
つぎの世代も豊かな暮らしをおくれるように、それが持続可能なものであるために。ニトリグループが提供できる「住まいの豊かさ」が、自分たちの世代だけではなく、未来の世代にもずっと続いていくことを願い、私たちは本気で「NITORI Group Green Vision 2050」の実現に向け、取り組んでまいります。

NITORI Group Green Vision 2050の全体像(中期目標+長期目標)

「NITORI Group Green Vision 2050」は、ニトリグループの環境に関する中長期目標です。各テーマにおいて、2030年度の中期目標と、2050年度の長期目標を設定しています。

テーマ	項目	2030年度目標(中期目標)	2050年度目標(長期目標)
サーキュラー(循環)ビジネスの推進	商品の資源化	「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、資源化を考慮した商品開発を推進する	「お、ねだん以上。」を維持しながら、資源化を前提とした商品開発100%をめざす
	パッケージの資源化	「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材への切り替えを推進する	「お、ねだん以上。」を維持しながら、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材への切り替え100%をめざす
	廃棄物の削減・再利用	排出前(分別して資源に) 排出後(埋め立てにまわさず再利用)	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量50%以上削減をめざす(2018年度比・売上高1億円あたり排出量) (国内) 回収した商品の資源化率100%をめざす(国内) 産業廃棄物の再利用率95%以上をめざす(国内)
持続可能な調達	森林破壊・人権侵害に関与しない原材料の調達	持続可能な木材調達環境・社会への配慮ができていない木材調達100%をめざす	持続可能な木材調達環境・社会への配慮ができていない木材調達100%をめざす(継続)
気候変動への対応	温室効果ガスを削減し、気候変動にポジティブに寄与	温室効果ガス排出量50%削減をめざす(2013年度比・売上高1億円あたり排出量) (スコープ1・2)	カーボンニュートラル(スコープ1・2)

サーキュラー(循環)ビジネスの推進



「サーキュラー（循環）ビジネスの推進」では、誰もが手に取りやすい「お、ねだん以上。」の価格と品質を維持しながら、資源化を前提とした商品開発100%を目指します。さらに、お客様から回収した商品の資源化率100%を目指すとともに、廃棄物についても、排出前にしっかりと分別をして資源にまわすことで、廃棄物排出量50%以上削減を目指します。そして致し方なく廃棄せざるを得ないものについては、埋め立てにまわさず、廃棄物の再利用率100%を目指します。そこで蓄積したノウハウは、再び「つくる」段階で、資源化を前提とした商品開発に活かします。このような、ニトリグループだからこそできる循環の仕組みの構築を目指してまいります。また、商品のパッケージにおいても、「お、ねだん以上。」を維持しながら、環境負荷低減素材への切り替え100%を目指します。

商品・パッケージの資源化

NITORI Group Green Vision 2050

項目	2030年度目標(中期目標)	2050年度目標(長期目標)
商品の資源化	「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、資源化 ^{※1} を考慮した商品開発を推進する	「お、ねだん以上。」を維持しながら、資源化を前提とした商品開発 100% をめざす
パッケージの資源化	「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材 ^{※2} への切り替えを推進する	「お、ねだん以上。」を維持しながら、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材への切り替え 100% をめざす

※1 ニトリグループが考える資源化とは、「つくる」段階から「つかいおわたあと」にごみにしないことを考慮し、以下のいずれかを実現することです。
 ・次に役立つ資源につなげる ・再製品化する ・再生原材料の使用 ※左記が困難な場合は、熱エネルギーとして活用
 ※2 再生素材、再生可能素材、生分解素材、化石燃料未使用素材等

商品の資源化

再資源化を見据えた商品開発(かんたん分別マットレス)や、回収製品の再製品化(再生羽毛布団)をはじめ、リサイクル原材料を使用するなど、限りある資源を守る取り組みをすすめています。

主な取り組み事例



パッケージの資源化

環境負荷の高いプラスチック系の梱包資材(緩衝材やパッケージ等)について、「プラスチック製の素材を無くす・減らす・変える」という軸で見直しを実施しています。その上で、素材名や材質記号を表示し、ごみではなく資源にまわしやすい状態を目指しています。

2030年度目標	主な取り組み内容	主な取り組み事例
「お、ねだん以上。」を維持できる範囲で、商品のパッケージにおいて環境負荷低減素材への切り替えを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ポリプロピレン (PP) など、石油由来の素材の削減 パッケージ自体の廃止 過剰高機能パッケージの廃止、簡素化 パッケージサイズや厚みの縮小化、重量の軽量化 プラスチックに変わる新素材の使用(竹・紙・植物由来・卵殻など) 	<p>プラスチック製の素材について、</p> <p>①無くす</p> <p>プラスチック製 梱包袋 → 紙製のヘッダーのみに変更</p> <p>②減らす</p> <p>スリッパのハンガーを小型のロックに変更し、石油由来素材の使用量削減</p> <p>③変える</p> <p>寝具のプラスチック パッケージ → 紙+紙製台紙へ切り替え</p>

廃棄物削減・再利用の拡大

NITORI Group Green Vision 2050

項目	2030年度目標(中期目標)	2050年度目標(長期目標)	
廃棄物の削減・再利用	排出前(分別して資源に)	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量 50%以上削減をめざす(2018年度比 売上高1億円あたり排出量)(国内) ▶2023年度実績: 34.5%[※] 回収した商品の資源化率 100%をめざす(国内) 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量 50%以上削減をめざす(2018年度比 売上高1億円あたり排出量)(グローバル) 回収した商品の資源化率 100%をめざす(グローバル)
	排出後(埋め立てにまわさず再利用)	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の再利用率 95%以上をめざす(国内) ▶2023年度実績: 89.6% 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の再利用率 100%をめざす。(グローバル)

※2030年度に廃棄物を30%削減する目標を掲げておりましたが、2022年度から2023年度にかけて2年連続で目標達成となったため、より環境負荷の低減を目指すべく、2024年度から50%削減目標に修正しました。

廃棄物の削減・再利用 ~廃棄時の分別の推進~

ニトリグループは、廃棄段階での分別を推進し、ごみではなく資源にまわすことで、廃棄量や廃棄コストの削減につなげるとともに、限りある資源を有効活用したいと考えています。店舗や物流拠点等では、廃棄物の資源化に向けてさまざまな取り組みを行っています。例えば、一部の物流拠点では、廃棄困難なベッドマットレスやソファを自前で解体し、分別を徹底することで、金属などの再生可能なものは資源として回収・活用され、一部、廃棄物として処理するものは処理業者によって回収され、資源や固形燃料として再利用されます。現在、このような分別作業を行う物流拠点をさらに拡大し、より多くの資源を有効活用しています。今後も、ニトリグループ独自の「一気通貫のビジネスモデル」を最大限に活かした廃棄フローの構築を目指していきます。



回収した商品の資源化 ~商品のリサイクル回収~

ニトリグループでは、お客様のお困りごとにより寄り添うと同時に、限りある資源を守るため、販売元にかかわらずリサイクル回収をする取り組みを推進しています。

カーテン回収	羽毛布団回収	タオル回収
<p>ご不要なカーテンをお持ち込み。リユース(製品や生地素材へ) / リサイクル(自動車の断熱材へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加客数: 約31.8万人 回収重量: 約1,170t <p>※2022年度~2023年度までの累計実績(全店舗)</p> <p>2023年度は、6月からニトリ及び島忠の全店舗において、カーテンの常時回収を開始し、お客様にいつでもお持ち込みいただける仕組みを構築しました。回収されたカーテンは、自動車の断熱材などへリサイクルするほか、製品や生地素材としてリユースしています。</p>	<p>ご不要な羽毛布団を回収。リユース(製品や生地素材へ) / リサイクル(ウエスとして再生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加客数: 約6万人 回収枚数: 約8.6万枚 <p>※2022年度~2023年度までの累計実績(全店舗)</p> <p>2023年度は、10月から12月までの期間で羽毛布団の回収を実施しました。回収した羽毛布団から取り出した「再生羽毛」使用の羽毛布団は、今年度、1枚あたりの再生羽毛使用量を大幅に増やし、より一層限りある資源を守る取り組みへとつながりました。</p>	<p>ご不要なタオルを回収。リユース(製品や生地素材へ) / リサイクル(ウエスとして再生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加客数: 237人 回収枚数: 約4,200枚 <p>※2024年1月29日~3月3日の実績(一部店舗)</p> <p>2024年1月より期間限定で、一部店舗において不要なタオルを回収する取り組みを実施しました。今回のタオル回収はニトリ初となる試みです。お持ち込みいただいたタオルは、ウエス(油や汚れを拭き取る布製品)としてリサイクルし、自社物流拠点等での再活用を予定しています。</p>